発展と教育のためのキリスト教機関(CODE)
ニュースレター　2018 年 12 月号

親愛なる里親の皆さんへ

まず初めにプリ・キンダーガルテンスクールの愛する子どもたち、教員、職員を代表して、皆さんとご家族、そして皆さんの教会の教会員の方々に*メリークリスマス！*
*２０１９年が幸せで実り多き年となりますように！*とお祝いを申し上げます。皆さんとご家族にとって、このクリスマスが希望の時季、愛の時季、祝福の時季となりますように。そしてクリスマスの天来の御光がこの時季に皆さんの人生を照らし、皆さんのご家族に、愛と幸福の充満する、より良い明日の約束をもたらしてくれますようにお祈りいたします。

2018 年 9 月のニュースレターは皆さんの元に届いているでしょうか。2018 年 10 月以降も、わたしたちの学校及び機関は、多くのプログラムを実施しました。感謝と喜びをもって、以下その報告をいたします。

恒例のバーケイション・バイブルスクール（VBS）
バーケイション・バイブルスクール（VBS）は、毎年わたしたちの機関で行っており、テーマに沿った活動で子どもたちを楽しませると同時に神さまについて学ぶ機会を提供しています。子どもたちは楽しく年齢に合わせた活動や人生の教訓を通して、良い人となること、他の人の友となることを学びます。

この VBS プログラムの中で最も大切な部分は献身礼拝です。なぜならこの時は、子どもたちがイエスさまを自分の救い主として受け入れ、その決心を公に告白する機会となっているからです。今回の VBS は 10 月 13～16 日までの期間、ナオミ・ビルディングで行いました。

子どもの家の閉鎖の前までは、この VBS プログラムは日本バプテスト女性連合によってフルサポートを受けていました。その頃の VBS は 5～6 日間で、毎年ほぼ 300 名の子どもたちが州内の各地からこの VBS に参加していました。しかし、今はわたしたちの財源が非常に限られているため、子どもと先生で 160 名のみを招待し、教派を問わず地元の教会からのみの参加となっています。

今年もまた地元の 10 の教会から合計 160 名の子どもと先生が VBS に参加しました。わたしたちの VBS プログラムの活動は、他の地区で実施された VBS プログラムとは少し違うものとなりました。ただ単にイエスさまを知り、救い主として受け入れる機会を提供するだけでなく、子どもたちの隠れたタレントを発掘するようにプログラムを作ったからです。
今年のプログラムでは、聖書の学び、振り付けつきの賛美、歌、証、信仰告白などがありました。また VBS の期間中、スポーツ、ゲーム、聖書クイズ、仮装ショー、インドの文化活動コンテストが行われ、子どもたちに喜ばれました。最終日の献身礼拝では 6 人の牧師が来て、子どもたちのために祈り、祝福してくれました。本当に嬉しく、神に感謝を

捧げていることは、150 名の参加者の中で、108 名が VBS のプログラムの間にイエスさまを受け入れたということです。

毎年のことですが、わたしたちは資金難のために、この VBS を開催することに困難をおぼえています。皆さんのクリスチャンの友人の中に 2019 年の VBS を経済的に支援くださる方をご存知でしたら是非お知らせください。このことは大変大きな助けとなります。なぜなら、更なる経済支援なしに 2019 年の VBS は開催することが出来ないからです。このプログラムは子どもたちをキリストの元に導くのに大変有効なプログラムです。これまでの VBS で決心した子どもたちがバプテスマを受け、その中の何人かは、今牧師や伝道者として活躍しています。1986 年からこのプログラムを行ってきていますが、この活動を 2019 年には中止せざるを得ないことを考えますと、わたしたちの機関（CODE）のみならず、VBS に関わってきたわたしたち一人ひとりも心が痛みます。VBS の継続のためにもおぼえて、どうぞ祈りください。

恒例の学校ピクニック

~~毎年~~恒例のプリ・キンダーガルテンスクールのピクニックが 2018 年 11 月に行われました。このピクニックでは、当初、プリから 6 キロ離れたピクニックスポットに子どもたちを連れて行く予定でした。しかし、近頃、交通事故が多発しているのでリスクを犯さない方が良いとの助言を受けました。そのようなことから、最終的にナオミ・ビルディング・リトリートセンターの敷地内で行いました。

ピクニックは午前 8 時半、学校の祈りの後で、まず生徒たちは朝食をとりました。ピクニックで子どもたちは室内外のゲームをしたり、音楽に合わせて踊ったり、最後には小さな子どもたちが大好きなかくれんぼをしました。昼食は 12 時半で、子どもたちは 1 時半にはそこを後にしました。わたしたちも小さな仲間たちと大変楽しい時を過ごすことが出来ました。その日、ナオミ・ビルディング・リトリートセンターの敷地にいたスタッフや家族は、子どもたちの存在そのもので大いなる幸せと祝福に与ることができました。

恒例のプリ・キンダーガルテンスクール運動会

他の小さな子どもたちと同じように、わたしたちの学校の子どもたちも走ったり、遊んだりすることが大好きです。子どもたちは毎年行われる運動会をいつも楽しみにしています。今年は 12 月 8 日に、より広いスペースのあるナオミ・ビルディングの庭で行いました。生徒たちは 9 時に集合し、学校の祈りの後に運動会が始まりました。かけっこや、かえる飛び競争、玉入れなどをしました。保護者のための競技もありました。運動会が終わると生徒たちにはおやつが配られ、今度は保護者のためのプログラムが始まりました。お母さんたちは糸と針を使っての競争、お父さんたちは袋競争（サックレース）に参加しました。会の最後には、著名な医師でソーシャルワーカーである主賓のプラフューラ・チャンドラ・ラス博士より表彰状が授与されました。とても愉快で参加者全員がプログラムを楽しみました。

最後になりますが、愛する友人である皆さん、クリスマスがすぐそこまで近づいてきました。皆さんもこの素晴らしい時に喜びと期待に胸を膨らませ、様々なお祝いを計画しておられることでしょう。学生たちは実家に帰り、家族は故郷に集まり、教会にはすでにいつもより多くの人が集い始めていることでしょう。クリスマスは、あの日、人類の救いのために、すなわち「彼を信じる者がひとりも滅びないで永遠の命を得るため」と、神さまが最も高価な贈り物を送ってくださったことを思い出す時です。最もすばらしい贈り物は、無料で、信じるすべての人に無条件で与えられます。わたしたちの功績、善良さ、資格の

有無に関係なく、ただ与えられます。これは聖書に示されているメッセージです。わたしたちがクリスマスに家族や友だち、親戚、教会の友や知人にプレゼントを贈る所以もここにあります。

クリスマスの朝にプレゼントを家族に渡していた小さな女の子の話です。家族皆のためにプレゼントは用意されていましたが、彼女は、この時に誕生を記念されるべきお方へのプレゼントがないと困惑していました。「みんなイエスさまのこと忘れてたのね」と彼女は言いました。わたしたちも知っているように、飼い葉桶に寝かされている無力の赤ちゃん・・それがクリスマスの全てなのです。しかしこの飼い葉桶に眠る赤ちゃんは神の小羊であり、皆さんとわたしの罪の償いのために死なれたお方です。

イエスさまが生まれたとき、博士らはこの世を救うその赤ちゃんに贈り物を贈りました。今日、わたしたちは文字通りにイエスさまに贈り物を贈ることは出来ません。しかし、イエスさまが喜ばれることのために捧げることは出来ます。イエスさまは言われました。「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」（マタイ 25:40）。プレゼントを贈る人のリストを作る時、必ずイエスさまの名前を一番に書いてください。

このクリスマスに「最も小さい者」のために何が出来るでしょうか。この世界には数えきれないほどの子どもたちが食べるものがなく、栄養失調のため死んでゆくことを知っています。また、わたしたちは、もし助けがあれば学校に通い、将来仕事に就き、自立をして家族を養うことが出来るようになる子どもたちがいることも知っています。

プリでは、皆さんの助けがあれば学校に通うことが出来、よりよい未来のため教育を受けることが出来る、そのような子どもたちが何千といます。ですから今年のクリスマスプレゼントのリストを作るときには、是非このような子どもたちのことを思い出してください。これは皆さんがイエスさまの名により贈ることが出来る、このクリスマス、最高のプレゼントとなります。

心をこめて

スレンドラ　クマール　モハンティ牧師より

わたしたちの連絡先

住所　Christian Organisation for Development and Education.
Naomi Building, Station Road, Puri 752002, Odisha, INDIA
メール　childrenshomepuri0@gmail.com
電話　00-91-6752-224978　携帯 ＋91-9437114996

里親の皆様へのお願い

パソコンのメールアドレスをお持ちの方は是非下記までご連絡ください。

taiyo-hoshi@tune.ocn.ne.jp

ご協力よろしくお願いいたします。